人間関係研究（南山大学人間関係研究センター紀要）, 1, 230-233.

■　人間関係研究へのアプローチ

体験学習が教育現場に広がることを夢見て

津　村　俊　充
（人文学部心理人間学科教授）

“治療が進む！患者グループを看護婦がファシリテート！”“教師のチームワーク作りが学校を変える！生徒が創造的に！”という見出しの新聞がいつか世に出るだろうか？とこのような夢を見ている２００１年の始まりである。

私が今こうして大学の教育者・研究者として仕事をしていること、このことに自らが不思議がっている。

思い起こせば、３０年近く前、地方大学の教員養成系の教育学部に所属していた私が、卒業研究で心理学を専攻し、学部の先生に連れられて神戸大学で開かれた日本教育心理学会に参加したのがきっかけで、大学院に進みさらに心理学を学ぼうと決意したのである。

そのシンポジウムのテーマは正確には思い出せないのであるが、「教育現場の研究と大学もしくは研究機関における学者の研究とのギャップ」みたいな話だったと記憶している。確か壇上には、大学に所属する研究者の方々が座り、彼らは現場の先生方の研究は、「目の色が輝いた」とか「やる気が見られるようになった」とかいった叙情的な表現がほとんどで、研究ではないといった、批判をしているように思えたことは、私の心に鮮明に残っている。そのことは、これから学校教育の現場に出ていこうとする私にはショッキングな出来事になったのである。その日から、学校教育の現場に出るのは後にして、まず大学の研究者の方々がどのようなことを学び、研究をしているのか、そのことに触れてから、学校教育現場に戻っても遅くはないだろうと考えたのである。

それから、３０年。

何が変わったか？何を学んだか？何を研究してきたか？どれもまだまだ、これからである。

学校教育の現場に戻りそこねた私にとって、昨年まで在籍することができた

南山短期大学人間関係科および人間関係研究センターは、教育現場を活性化するであろう『体験学習』という学習方法を私に教えてくれた大切な場所であった。正確には『ラボラトリーメソッドによる体験学習』とよぶのが良いだろう。これは、現在の学校教育だけでなく、さまざまな教育現場で知識偏重の教育から感情・思考・行動に関わる態度の変容に影響を与える教育活動であり、人間全体にアプローチする学び方であり、学習者一人ひとりの今ここにあるありようを吟味しながらこれからを考えていくことができる、人間の生き方に関わる教育そのものである。この体験学習によるアプローチは、現場の人々すべての方々と共に、組織作り、チーム作り、メンバー一人ひとりの成長のために取り組むアプローチそのものであり、人間関係が関わるすべてのフィールドでいわゆるアクションリサーチを実践しつつ、学びを深める手法を私は学んできているのである。

今の私の関心は、この体験学習というアプローチを通して自分自身磨くこととと、それを実際にさまざまな現場の方々に伝えること、そしてそこにいる人々がより人間性を尊重した環境作り・教育実践が行えるような教育者（最近は比較的、ファシリテーターという言葉が好まれて使われる）養成に関心をもっている。特に、南山大学人間関係研究センターが開設され、センターでの私の仕事は、この現場教育者の養成を大切にしたいと考えている。

この一年間をふりかえってみると、私の活動の大きな柱として、（１）体験学習を中心とした実践活動：さまざまな現場に出かけていき、直接人々と出会い、体験学習を実践すると共に、そのノウハウを学んでもらい、教育者を養成すること、（２）日本体験学習研究会の主催：『体験学習』を旗印に、全国の体験学習実践家が集う「日本体験学習研究会」の全国大会の開催、（３）WEBサイト開設：『つんつんの体験から学ぼう』というWEBサイトを開設し、全国の人々に対して、体験学習の理念や実践方法などを広める運動、の３つを実践してきている。

（１）体験学習を中心とした実践活動

大学内での教育活動だけでなく、本学の人間関係研究センターの仕事や社会からの要請に応える形で、2000年度は主に以下のような教育・研修に体験学習を中心にしたプログラムの教育を提供している。

- 「生き生き学校・生き生き学級作り」講座
  本学人間関係研究センター主催
- コミュニケーション・スキルアップ・トレーニング
  (株)プレスタイム主催
- 体験学習ファシリテーター養成セミナー　ADVANCED
  (株)プレスタイム

・なごや環境塾「グループ活動を進めるには」
　　名古屋市環境保全局環境学習センター主催
・JICA 技術協力専門家養成研修「ファシリテータートレーニング」
　　国際協力事業団（JICA）主催
・総合的な学習研究授業「自立のための心理学」鈴鹿市鈴峰中学 3 年生対象
　　鈴鹿市教育委員会主催
・　リーダー研修
　　名古屋大学医学部付属病院主催

このような「体験学習」を用いた教育実践を通して、多くの人々と出会い、ネットワークを広げてきている。そして、それぞれの人々の現場で、私の研修で学ばれたことが花開いていくことを願っている。

（２）日本体験学習研究会全国大会の開催

一昨年度、第１回日本体験学習研究会の全国大会を開催した。日本における『体験学習』と名乗って教育実践をしている方々が集まり、自分たちの教育プログラムの実践報告などをしながら、参加者相互の体験学習の理解とスキルを高めることを目的とした、全国規模の研究会の開催であった。1999年11月27日（土）、28日（日）に開催された初会合に、なんと延べ300名、実数200名の教育関係者が集まり、研究発表・実践報告が行われたのである。その集まった、領域は、小・中・高等学校そして大学と学校教育の領域の人々、医療・看護領域の人々、生涯学習、野外教育・環境教育の領域の人々、企業教育に携わる人々、また国際協力の関係者と、まさに幅広い領域から人々が集まり、これからの新しいムーブメントが起こりそうな感じを得ることができたのである。昨年度も、１２月初旬、人間関係研究センターの協力のもと、第２回日本体験学習研究会全国大会を開くことができたのである。参加人数は、ほぼ第１回と同じ規模であった。

（３）「つんつんの体験から学ぼう」ＷＥＢページ開設

南山大学人文学部心理人間学科への移籍を契機に、『Tsumura Studio』という WEB の名称を改め『つんつんの体験から学ぼう』というWEBの新装開店を行ったのである。これまで、1996年5月に「Tsumura Studio」として津村のホームページを開設、その後ほとんど更新することなく日々を過ごし、「つんつんの体験から学ぼう！」新装開店（2000／5）までの４年間のアクセス数が、1876であった。

南山大学移籍時に、ネット上でさまざまな検索ツールを用いておもしろ半分で津村俊充と入力し、検索をかけると、津村という名前がいろいろ散在した形で現れることに驚くと同時に、津村がやっていること、とりわけ『体験学習』

に関してちゃんと津村自身から発信していかなくてはいけないと感じたのが、WEBに手を加えるようになった動機である。今では、アクセス数が15000に近づきつつあり（10月末日現在)、新装開店から９ヶ月で４年間のアクセス数の８倍近いアクセス数を数えるほどになっている。と言っても、一日平均25アクセスほどであり、改良の余地はたくさんあり、これからさらに、『体験学習』に関わるコンテンツの充実をさせていきたいと考えている。『体験学習』の啓蒙を考えると、小・中学校・高等学校において次年度から本格的に導入される「総合的な学習」の実際的なプログラムの展開例を示していくコンテンツをとりわけ充実させたいと考えている。

以上が、私の研究活動というよりも、教育実践活動である。『体験学習』がさまざまな教育現場に広がること、それは一人でも多くの人々が人間的に成長すること、を夢見て、私の人生に残されている時間を使いたいと考えている。

そして、様々な現場の教育者とともに「教育とは何か？」を考える研究会（オフミーティング）の実現も考えている。

つんつんの体験から学ぼう！

URL：http://www.nanzan-u.ac.jp/~tsumura/